いいたて みかげ石 ものがたり

みかげ石を生かして

特産のみかげ石を活用した見どころスポットを紹介します。

平成５年度に完成した役場庁舎は「自然と溶けあうやさしい役場」がコンセプト。みかげ石のよさを生かしたデザインが目をひきます。

村の中にあるさまざまな施設に、みかげ石は生かされています。建物はもちろん、道路の縁石や、案内板の台座、看板、石碑などに利用され、村の風景を彩っています。この夏にオープンした「ふかや風の子広場」にも、名称を刻んだ大きなみかげ石が設置されました。そして、どのスポットのみかげ石も、石なんだけど、どこか温かみが感じられます…そこに誰かのアイデアや、伝えようとした思いが込められているからでしょうか。

役場の前庭にも多くの石彫。平成５年に村内で「あぶくまストーンコンベンション'93」が開かれ「みかげ石を利用した彫刻のある村づくり」が進められました。

橋の欄干の柱にもこだわりのデザイン。大師堂橋には地名の「大師堂」にちなみ伝統建築の装飾「擬宝珠（ぎぼし）」、飯樋川の新橋には祭りの太鼓がデザインされています。

「いいたて希望の里学園」の花壇の縁石にもさりげなくみかげ石が使われています。

インタビュー／みかげ石 ものがたり

村役場の庁舎や敷石にみかげ石を使うなど、当時、石材業で村おこしをする機運が高まっていました。地元の石を生かしたいと、協同組合も奮闘。村境に石碑を建てる時にも、組合の各社が分担し、公募したデザインなどを採用しながら、思いを込めて石碑をつくりました。

村の地盤は岩盤で強い。畑などからみかげ石が出ることも珍しくありませんでした。ここで産出する白みかげは、強度があり、含まれる鉱石にも調和があり、艶が出て非常に品質がよい。原石での出荷が多く、県外にも取引先を増やし、墓石や建材として各地で利用されました。一方、職人を招いて技術を学び、村内でも石材加工が盛んになっていきました。

現在は安価な輸入石材が国内流通のほとんどを占めていますが、国産の石のよさも大切にしたい。石に彫れば、末代まで残ります。村内にあるさまざまな石の作品も、村の歴史を語り継ぐものになっていくでしょう。

飯舘みかげ石販売協同組合
理事長　濱田幸政さん（草野）

濱田石材工業社長。村内の業者を組織化し石材業を地場産業とすべく尽力。同社は現在も村内での採石を行っています。

全国から募った句をみかげ石に刻んだ「あいの句碑」が並ぶ「村民の森あいの沢」に、濱田さんが寄贈した句碑。全村避難中に黛まどかさんが詠んだ句を刻みました。

ひたすらに
雪を重ねて
村眠る

飯舘村のいろいろな場所で存在感を放つみかげ石。時代の流れで輸入石材におされ、石材業界全体が縮小しているところですが、飯舘村のみかげ石の魅力は、多産でないからこその価値が増しているかも知れません。

主力産業として盛んであった頃、村おこしに、地元の石を使って、さまざまに行われていた事業や試み。まさに「石は末代まで」で、当時の人の熱い思いが、そのまま伝わってくるようです。

村境の石碑が気になっていた皆さん、まだまだ語り足りない中ですが、多少は疑問が晴れたでしょうか。「愛する村に、ようこそ！」とデザインに思いを込めたみかげ石の石碑は、今も、村を訪れるすべての人を歓迎しているのです。

全国から「座右の銘」を募り、みかげ石に刻むプロジェクトが進行中。その石碑は「いいたて村の道の駅までい館」の遊歩道に設置されています。人生で大切にしている言葉を伝え合う「言葉の散歩道」です。